



知床科学委員会

しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO. 4



「知床で今何が起きているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

今回の会議

10月25日(木)に釧路地方合同庁舎にて、今年度第2回目の会議がありました

必見!
TOPIC

知床岬の台地はどうなった?

知床岬でエゾシカの捕獲を始めて5年が経ちました。

2007年以前、エゾシカは越冬個体が集合する冬はもちろん、夏も台地の草原上で姿が見られましたが、現在、夏にはほとんど見かけなくなりました。台地上の草原では、植物や景観にも明らかな変化が始めました。



シカが食べない植物
ばかりあるね。

ハンゴンソウ



トウゲブキ

イネ科草本群落



ツリガネニンジン

2007年以前



現在

シカに食べられてた
植物が育ってきてる!



2012年夏の植物調査では、エゾシカが好んで食べるクサフジやツリガネニンジン、イネ科の草が回復していることが確認されました。他にも、以前はほとんど見られなかった種がちらほら見られるようになっています。

この5年間での変化は、エゾシカ捕獲事業の成果と言えるでしょう。今後もエゾシカの生息密度を低く保ちつつ、知床岬の植物がさらにどのように変化していくか、注意深く見守る必要があります。

今話し合ったこと

- ① 今冬のエゾシカ捕獲事業計画について
- ② 今夏の生態系回復状況モニタリング事業の結果報告
- ③ エゾシカ個体数調整事業の評価方法について

注目!

生態系回復（植生等）指標の開発

2008年、ユネスコ世界遺産センターとIUCNによる知床世界自然遺産地域の現地調査が実施され、エゾシカの保護管理に関して4項目の勧告を受けました。その中に、エゾシカが植生に与える影響を測る指標（ものさし）を開発せよとの勧告があり、今回の会議では、この指標の検討が詳しく行われました。ひとまず、エゾシカを減らす過程で現れる植生変化を注意深く観察し、そこから適切な指標を選んでゆこうということになりました。これまでの調査結果から、クサフジやサラシナショウマ、チシマアザミなどいくつかの指標候補が既に挙げられており、今後も議論が続けられる予定です。

2008年、ユネスコ世界遺産センターとIUCNによる知床世界自然遺産地域の現地調査が実施され、エゾシカの保護管理に関して4項目の勧告を受けました。その中に、エゾシカが植生に与える影響を測る指標（ものさし）を開発せよとの勧告があり、今回の会議では、この指標の検討が詳しく行われました。ひとまず、エゾシカを減らす過程で現れる植生変化を注意深く観察し、そこから適切な指標を選んでゆこうという



ものさし候補のクサフジ

注目!

シカ捕獲手法の確立

第2期知床半島エゾシカ保護管理計画が策定され、知床半島各地域での管理方針、目標および手法が確定しました。

知床岬、斜里町側の幌別・岩尾別地区、羅臼町側のルサ・相泊地区では、引き続きエゾシカの捕獲事業が展開されます。いかにして効率を落とさず、希少猛禽等に影響を与えずにエゾシカを捕獲するかが課題でしたが、第1期計画の中で行われた捕獲手法検討調査の結果を受けて、当面の方針が決まりました。

今冬の知床岬では、昨年度設置したエゾシカ捕獲補助柵を利用した巻狩りで、捕獲前に航空調査で確認した頭数の8割以上の捕獲を目指します。ルサ・相泊地区では、流し猟式シャープシューティングと囲いワナで合計300頭を捕獲。幌別・岩尾別地区では、流し猟式シャープシューティングと囲いワナに加え、知床岬と同様の仕切り柵の設置とそれを利用した捕獲も予定され、合計1340頭の捕獲を今冬は目指します。

■今冬の捕獲方法■



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■
 環境省釧路自然環境事務所
 〒085-8639
 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

委員の鈴木です。



学生時代はアザラシの調査で知床に。エゾシカ研究約30年、岐阜に移ってから北海道通いを続けています。

シカ類の増加は世界中で問題となっています。そのため欧米では、さまざまな手法による捕獲が進められています。知床で始まったシャープシューティングも、そんな手法のひとつです。しかし、銃や捕獲に対する規制が異なるため、日本の法律に合わせた修正が必要です。知床での試みは、日本版シャープシューティングの先駆けとして全国の注目を集めています。

委員 鈴木正剛